

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 足立 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の3つの領域の中では、「書くこと」の領域が、全国との正答率とほぼ同じで高かった。「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域が全国より低かった。必要なことを質問したり、話し手が何を伝えたいのかを聞き取ったりすること、文章を読んで、中心となる語や文を見付けて要約することに課題が見られた。
	よくできた問題	送り仮名に注意して漢字を分の中で正しく使う問題や、文章の特徴をよみとって、適切な説明についての内容を選択する問題
	努力が必要な問題	自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題や、資料を読んで分かったことをもとに、自分の考えをまとめる問題

算数	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の5つの領域の中では、どの領域も全国との正答率より低かった。特に「図形」や「変化と関係」「データの活用」の領域に課題が多く見られた。「台形」や「正三角形」などの四角形や三角形の意味や性質、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断する問題に課題が見られた。
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、椅子を重ねた時の高さを求める問題
	努力が必要な問題	複数の棒グラフが組み合わされた資料を読み、もとの棒グラフとの違いを見付ける問題や、比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさを求める問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」や「先生は理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」と回答した児童の割合は、全国平均を大きく上回っている。本校で重点化して取り組んでいる週5回のチャレンジタイム（補充学習）や給食時間に全校放送している「わたしが見かけたちょっといい話」など、認め合う子どもの育成への取組がよい影響を及ぼしていると考えられる。 「PC・タブレットなどのICT機器を積極的に使っている」「ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した児童の割合は、全国平均を大きく上回っている。3年生以上の児童が、週3回のタブレットを活用した計算問題に取り組んだり、空き時間を利用してドリルアプリに積極的に取り組んだりしている成果だと考えられる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「算数の勉強が好き」と回答した児童が少ないのに対し、「算数の学習は大切である」と回答した児童が多いことから、今後も基礎的な内容がしっかりと身に付くよう授業改善や補充学習を進め、算数科を中心に、全学級複数教諭による指導体制を整えていくことが課題である。 「家で自分で計画を立てて勉強をしていない」と回答した児童が多かった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、資料を読んで分かったことをもとに、考えをまとめたりする力を育成するため、授業においてICT機器を有効活用しながら、自分の考えを話したり友達の考えにふれたりする機会を積極的に増やしていく。
 ・算数科・国語科を中心に基礎的な内容がしっかりと身に付くよう、複数教諭による指導体制を整え、補充学習を継続していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・規則的で健康な毎日を過ごせるように、学級通信や学校だより、保健だよりで就寝時間やスマホやゲームの使用時間などを呼びかけ、生活習慣を見直すよう啓発していく。
 ・子ども達が家庭学習に計画的に取り組めるよう、音読やプリント等の課題以外にも自主学習に進んで取り組めるよう指導していく。